

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会
(事務局 圓藤吟史)
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3
大阪市立大学医学部環境衛生学教室内
F A X 06-6646-3160
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第42回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会

学会長 河野 公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室教授)

日時 平成14年11月9日(土) 9:15~17:00

会場 大阪医科大学・構内

一般講演	9:45~11:26	第1会場	臨床第1講堂		
		第2会場	臨床第2講堂		
		第3会場	講義実習棟	2階	学生講堂1
		第4会場	講義実習棟	2階	学生講堂2

基礎実地研修会・生涯実地研修会

特別講演 14:00~14:40 第1会場 臨床第1講堂

「心肺蘇生法の新しい潮流

-労働現場、またはリハビリテーション施設、公的施設に自動除細動器導入の意義-

富士原彰 (大阪医科大学 救急医療部教授)

座長 河野公一 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教授)

実習 14:40~17:00 本部北西キャンパス 2階 201~206号

懇親会	11:50~13:40	本館・図書館	地下1階	食堂
幹事会	12:10~13:00	本館・図書館	4階	第1会議室
評議員会	13:10~13:40	第3会場	講義実習棟	2階 学生講堂1

学会開催にあたって

大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室教授
河野公一

この度、第42回近畿産業衛生学会を開催させていただきますことを大変光栄に存じます。高槻での開催は恩師吉田康久教授が第24回学会を主催されて以来約20年振りになります。会場となります大阪医科大学は阪急高槻市駅前に位置し、またJR高槻駅からも近く、多くの会員の皆様のご参加をお待ち申し上げております。当日午前の一般発表は32題の申込をいただいております、4会場を使用して進行される予定です。演題数を考慮しますと少し余裕のある時間構成となっております。会員の皆様の活発な討論を願っております。お昼休みには懇親会を兼ねた昼食会を大学食堂で行いますが、午前中の発表での議論をさらに盛り上げていただきますよう、またこの機会に学会参加の皆様の親睦の和を多いに広げていただきますことを期待しております。午後は特別講演とあわせて、産業医、産業看護職、産業技術職などの生涯学習を兼ねた研修会を予定しております。特別講演は大阪医科大学救急医療部富士原彰教授による「心肺蘇生法の新しい潮

流-労働現場、またはリハビリテーション施設、公的施設に自動除細動器導入の意義」と題してお話しをいただきます。富士原彰教授は長年、大阪府三島救命救急センターの所長として大阪府の救急医療体制の構築に努力されてこられました。昨年4月より新たに開設されました大阪医科大学救急医療部の教授に就任され、医学部学生の卒前教育や研修医などの指導にも力を注いでおられます。数多くの災害事例を経験されており、われわれ産業保健スタッフのとるべき対応についてもお話しねがえるものと期待しております。さらに引き続いて大阪医科大学麻酔科の大野正博助教授、救急医療部西本泰久、小林正直両講師をはじめとするインストラクターの先生方による救命救急の実地演習が行われます。産業現場でも起こりうる不測の事態に備えることは、われわれ産業保健に携わるものにとり必須の要件でもあります。秋深まる高槻の地での学会に、会員の皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。

第42回近畿産業衛生学会プログラム

第1会場 (臨床第1講堂)

- (9:45~10:33)座長 郷司純子 (兵庫医大・公衆衛生)
- 101 ライフスタイルと包括的健康評価に関する予防医学的研究 第33報:コンピュータ労働者のライフスタイルと精神的健康度の関係
○江副智子、森本兼義(大阪大院・医・環境医学)
- 102 生活習慣の実態より予測されるADLについて
○高橋達夫(滋賀保健研究センター)
- 103 社員の飲酒習慣の実情
○伊藤正、上原新一郎、鹿田潮、平田千鶴子、茂木晶子、近松典子、一尾直子、堀千恵、大見甫、今井準、藤井保男、岡田守仁(大阪鉄道病院 保健管理部)
- 104 「死の四重奏」の頻度と四重奏に至る経過について
○加藤俊夫(三菱電機系統変電・交通システム事業所伊丹健康増進センター)
- (10:38~11:26)座長 加藤俊夫
(三菱電機系統変電・交通システム事業所伊丹健康増進センター)
- 105 HCV抗体陽性者の精密検査結果と治療状況について
○杉原久子(三菱電機系統変電・交通システム事業所伊丹健康増進センター)
- 106 GC法による尿中フランカルボン酸の定量
○池田直子、城山康、道辻広美、高倉敏行、山田誠二(松下産業衛生科学センター)
- 107 振動工具取扱者検診における0℃10秒冷却負荷試験の有効性の検討
○郷司純子(兵庫医大・公衆衛生)
- 108 レーザー血流画像化装置を用いた振動工具取扱者の冷水負荷試験における末梢循環動態の評価
○寺田和史¹⁾、宮井信行¹⁾、坂口俊二¹⁾、富田耕太郎¹⁾、戸村多郎¹⁾、南佳宏¹⁾、山本博一¹⁾、森岡郁晴²⁾、宮下和久¹⁾ (¹⁾ 和歌山医大・衛生、²⁾ 和歌山医大・看護短大部)

第2会場 (臨床第2講堂)

- (9:45~10:33)座長 花田尚志
(松下電器産業(株)高槻工場健康管理室)
- 201 健診現場におけるリバロッチ式血圧測定装置と自動血圧測定値との比較
○大川幸美(財)日本予防医学協会関西支部健康管理課)
- 202 健診時の血圧の健康への影響
-血圧と8年後の医療費-
○日高秀樹、古澤俊一、寺井知博、益江毅、三好佳子、太田黒規子、広田昌利
(三洋電機連合健保 保健医療センター)
- 203 自覚的血圧レベルと健診血圧との差異
○岩根幹能、葎川明義、麦谷耕一、大畑博、中村秀也、木下藤寿、伊藤克之、生田善太郎、茂原治(財)和歌山健康センター)
- 204 労災保険二次健康診断等給付の制度を活用した健康づくり支援の効果について
○伊藤克之、木下藤寿、岩根幹能、大畑博、麦谷耕一、志辺好、葎川明義、茂原治
(財)和歌山健康センター)
- (10:38~11:26)座長 日高秀樹
(三洋電機連合健保 保健医療センター)
- 205 時間外勤務が労働者の生活習慣・自覚症状へ及ぼす影響
○坂手誠治、村田和弘、阪上皖庸、木村隆
(財)近畿健康管理センター)

- 206 鉄欠乏状態とカドミウム負荷との関連
○塚原照臣¹⁾、江崎高史¹⁾、森口次郎¹⁾、古木勝也²⁾、池田正之¹⁾ (¹⁾ (財)京都工場保健会、²⁾ 産業医大・作業病態)
- 207 働く女性の健康づくり
-母性健康管理の充実をめざして-
○新野真弓、前田友希、磯田千賀、中西理恵子、高田康光(松下電器産業(株)電化・住設社奈良健康管理室)
- 208 看護師職における低血糖とそのリスク要因
○井上佳代子、小泉昭夫(京都大院・医・環境衛生)

第3会場 (講義実習棟 2階 学生講堂1)

- (9:45~10:33)座長 埜田和史 (滋賀医大・予防医学)
- 301 男性の交代勤務者にみられた健康影響の検討
-健診結果の解析より-
○瀧本忠司¹⁾、田邊淳²⁾、大東正明²⁾ (¹⁾ ダイハツ工業(株)京都工場診療所、²⁾ ダイハツ保健センター)
- 302 ポリウレタン樹脂製造作業員に対する気道等のアレルギー症状の問診調査
○井口弘、西榮珠子、和田安彦、土居(松永)珠紀(兵庫医大・衛生)
- 303 はつり労働者の健康障害
-52名の面接調査結果-
○車谷典男¹⁾、²⁾、松浦良和¹⁾、熊谷信二¹⁾、中村猛¹⁾、山根孝¹⁾、林繁行¹⁾、片岡明彦¹⁾ (¹⁾ 建設じん肺研究会、²⁾ 奈良医大・衛生)
- 304 産業保健推進センターの活動の現状と展望
-和歌山からの報告-
○森岡郁晴¹⁾、³⁾、宮下和久²⁾、³⁾、武田眞太郎²⁾、³⁾ (¹⁾ 和歌山医大・看護短大部、²⁾ 和歌山医大・衛生、³⁾ 和歌山産業保健推進センター)
- (10:38~11:26)座長 森岡郁晴
(和歌山医大・看護短大部、和歌山産業保健推進センター)
- 305 身体障害者の生活・労働における問題点の検討
○辻村祐次、埜田和史、北原照代、富岡公子、西山勝夫(滋賀医大・予防医学)
- 306 職業的手話通訳者における頸肩腕部自覚症状と全身・精神神経症状との関連
○北原照代、埜田和史、富岡公子、辻村祐次、中村賢治、西山勝夫(滋賀医大・予防医学)
- 307 音声言語刺激に対する筋緊張反応が認められた手話通訳者の事例
○富岡公子、北原照代、埜田和史、辻村祐次、西山勝夫(滋賀医大・予防医学)
- 308 正確な有害情報の重要性
-対応が困難であった事例-
○原一郎¹⁾、中上和義²⁾、森岡文子²⁾、河野公一³⁾
(¹⁾ 大阪産業保健推進センター、²⁾ 近畿健康管理センター、³⁾ 大阪医大・衛生・公衆衛生)

第4会場 (講義実習棟 2階 学生講堂2)

- (9:45~10:33)座長 河合俊夫
(中央労働災害防止協会大阪労働総合センター)
- 401 実験的モノクロル酢酸皮下投与後の糖新生障害について
○富永美果、土手友太郎、白田寛、清水宏泰、年名優美、岩井順子、福富昭伯、河野公一
(大阪医大・衛生・公衆衛生)

- 402 モノクロル酢酸の致死毒性に対するグルタチオン、アミノレバンおよびマンニトールの治療効果
○岩井順子、土手友太郎、清水宏泰、有末正敏、白田寛、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 403 実験的モノクロル酢酸眼球暴露による局所および全身影響について
○富永美果、土手友太郎、白田寛、清水宏泰、年名優美、岩井順子、福富昭伯、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 404 実験的モノクロル酢酸皮下暴露後の複合有害影響について
○年名優美¹⁾、土手友太郎¹⁾、清水宏泰¹⁾、富永美果¹⁾、岩井順子¹⁾、河野公一¹⁾、清金公裕²⁾
(¹⁾ 大阪医大・衛生・公衆衛生、²⁾ 大阪医大・皮膚科)
- (10:38~11:26)座長 熊谷信二
(大阪府公衆衛生研究所労働衛生部)
- 405 実験的モノクロル酢酸皮下投与後の肺障害について
○岩井順子、土手友太郎、清水宏泰、明石光也、白田寛、川崎隆士、河野公一(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 406 アスベストまたはその代替繊維とマクロファージ系細胞の培養によるニトロソチオールとO₂⁻の産生
○西榮珠子、和田安彦、井口弘(兵庫医大・衛生)
- 407 生体試料中微量元素濃度の対数正規分布様式について
○白田寛、河野公一、土手友太郎、清水宏泰、川崎隆士、三井剛、堀内俊孝、小泉千里、中瀬恵美子、福富昭伯(大阪医大・衛生・公衆衛生)
- 408 カドミウム取扱い作業者の低濃度暴露による腎臓への影響
○川崎隆士¹⁾、河野公一¹⁾、土手友太郎¹⁾、白田寛¹⁾、清水宏泰¹⁾、三井剛¹⁾、小泉千里¹⁾、中瀬恵美子¹⁾、原田章²⁾、土居一英²⁾
(¹⁾ 大阪医大・衛生・公衆衛生、²⁾ 関西労働衛生技術センター)

11:50~13:40 懇親会 本館・図書館 地下1階 食堂

12:10~13:00 幹事会 本館・図書館 4階 第1会議室

13:10~13:40 評議員会 実習棟 2階 学生講堂1

基礎実地研修会・生涯実地研修会

14:00~14:40 特別講演 臨床第1講堂

「心肺蘇生法の新しい潮流

ー労働現場、またはリハビリテーション施設、公的施設に自動除細動器導入の意義ー」

富士原彰 (大阪医科大学 救急医療部教授)

座長 河野公一(大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教授)

14:40~17:00 実習

本部北西キャンパス 2階 201~206号

インストラクター：富士原彰(大阪医科大学救急医療部

教授)、大野正博(同大学麻酔科診療助教授)、西本泰久

(同大学救急医療部講師)、小林正直(同大学救急医療部講

師)、尾原幹啓(同大学救急医療部助手)、石見拓(大阪大

学総合診療部)、入澤太郎(大阪大学救命救急センター)、

岸本正文(中河内救命センター)、大岸英子(大阪医科大

学看護部)、濱田恵美(同左)、野田志登美(同左)、

白木美幸(同左)、大八木寿美(同左)、石飛祥子(同左)、

原田康弘(同左)、雪本貴司(救急救命士・岸和田救急)

赤塚敬司(同左 枚方寝屋川消防署)、奥谷康久(同左 豊

中市北消防署)、松本政明(同左 堺市高石市消防本部)、

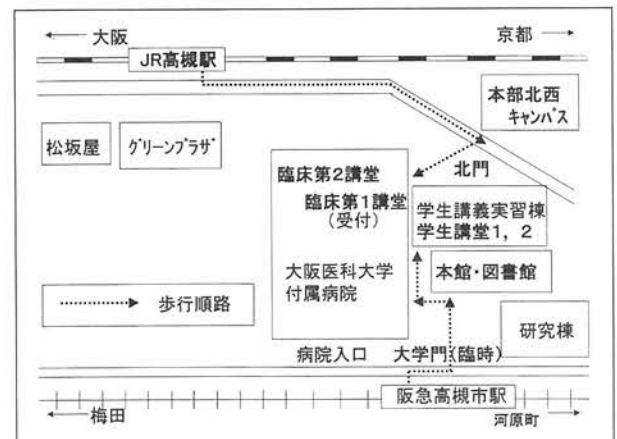
中井正平(同左 豊中市南消防署)

会場への交通機関

1) 阪急高槻市駅より徒歩5分

2) JR高槻駅より徒歩10分

* 車でのご来場はご遠慮下さい。



1. 参加の手続き

1) 受付は大阪医大・臨床第1講堂前ホールで、午前9時15分から開始します。

2) 参加費は学会員2,000円、学会員以外は3,000円です。

2. 演者の方へ

1) 1題12分(口演7分、質疑応答5分)

2) OHP、液晶プロジェクター、スライドご使用の方は15分前までに各部屋入口受付でその旨お伝え下さい。

3) 学会誌「産業衛生学会誌」掲載用の抄録を予め400字以内にまとめて、当日、受付にご提出下さい。

4) 当日、資料を配布される場合は100程度ご用意下さい。

3. 幹事会および評議員会

幹事会は大阪医大・本館・図書館4階第1会議室にて12時10分から行います。昼食は用意いたします。評議員会は大阪医大・実習棟2階学生講堂1にて13時10分から行います、昼食は懇親会場の大阪医大・本館・図書館地下1階食堂にておとり下さい。

4. 懇親会

昼食をかねた懇親会を大阪医大・本館・図書館地下1階食堂にて11時50分から13時40分まで行います。

5. 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

本学会の基礎実地研修会・生涯実地研修会(特別講演と実習)への参加により、日本医師会認定産業医制度による基礎実地研修3単位または生涯実地研修3単位が認められます。当日、医師会の受付で申請して下さい。

6. 産業看護職の方へ

本学会の基礎実地研修会・生涯実地研修会(特別講演と実習)への参加による日本産業衛生学会産業看護職継続教育(実力アップコース)単位取得を申請中。

講習会の成果を 教本「産業医学実践講座」へ結実 さらなる充実を目指し第2期講座を開始

産業衛生講座実行委員長
産業医学実践講座編集委員長 徳永 力雄

第19回産業衛生講座講習会が去る8月31日に開催されました。これは平成10年から始めた産業衛生講座（講習会と実地研修会）の第2巡目のスタートでした。ご存じのように、この講座は近畿地方会が特徴ある学術活動として始めたもので、対象を産業医ばかりでなく産業保健師・看護師、産業保健技術者などに広げて実施しています。1巡目は18回の講習会と34回の実地研修会を行いました。そして、それらを集大成して南江堂から「産業医学実践講座」（B5判473頁、2002年5月25日発行）を出版しました。講習会の講師をはじめ第一線で活躍中の近畿地方会の会員有志89人が執筆して、読みごたえのある、かつ現場で役に立つ座右の書となることを目指しましたが、不十分なところも多いことと思います。皆様からのご批判とご指摘をお願いする次第です。2巡目は、本書をテキストとして使用しながら2005年までに15回あるいはそれ以上の実地研修を含む講習会の開催を予定しております。本書が全国の各種研修会でもお役に立てばうれしいですので、PRをお願いいたします。なお、最新の内容を維持するため、2005年ごろに改訂を行うことも予定しております。そのために、産業衛生講座実行委員長兼改訂編集委員として、車谷典男、山田誠二両先生を加えた圓藤吟史、岡田章、小泉直子の各先生と筆者が幹事会で指名されました。事務局は、丸紅大阪健康開発センターです。今後、会員と近畿および全国の受講者などの要望を取り入れながら、新鮮な講習会と実地研修会を企画し、改訂版の編集につなげていきたいと考えております。皆様の一層のご指導とご支援をお願いする次第です。



産業衛生講座第19回講習会風景

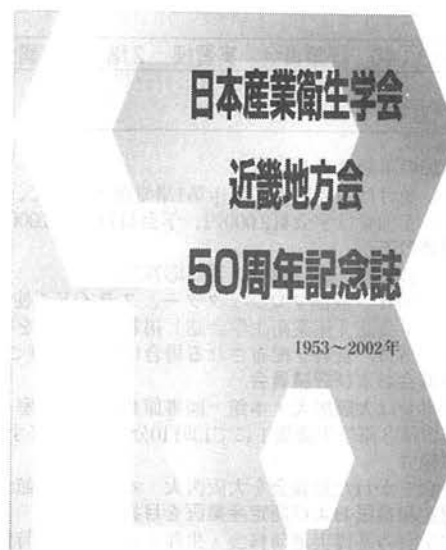
近畿地方会50周年記念誌発行を終えて

近畿地方会は今年50周年を迎えるに当たり、記念事業の一環として記念誌を発行する事となり、2001年6月に編集委員会が発足しました。以来編集委員会で検討を重ね、2002年8月に発行の日を迎え、皆様にお届けすることが出来ました。

今回の50周年記念誌は、前回の40周年誌を基盤とし、補訂・検討を加え、その後の10年を追加しました。そして、親しみ易く、内容を豊かにするために会員の皆様の地方会に関する思い出、エッセイ、希望、要望等を寄稿として纏めました。慣れない作業で、お見苦しい点が多々ある事と思いますが、近畿地方会50年の歴史を築いて来られた諸先生方の情熱とご尽力に想いを馳せながら編集させて頂きました。又、原稿を寄せて下さった会員の皆様にお礼申し上げますとともに、ご迷惑をお掛けした事をお詫び致します。

編集に当たっては、歴史的な記述だけでなく、皆さんからお寄せ頂いた写真や資料を加えて、その時代背景を解り易くする事を企画しましたが、残念ながら収集出来ませんでした。今後は、次回の記念誌を想定し、写真やポスター等の資料を保存し、管理して行く事も必要と思われます。

編集責任者の平田衛先生は、2001年5月に「産業医学総合研究所」に転属され、近畿地方会を転出されましたが、50周年事業担当幹事(1999年度以降)であった事からその任を継続して頂き、記念誌発行に多大なご尽力を賜りました。終わりに、本誌が産業保健活動の更なる発展にお役に立つ事を念じております。



(文責：50周年記念誌編集委員 植本)

第6回近畿産業医部会研修会の報告

研修会を開催して

第6回近畿産業医部会研修会実行委員長

松下電器産業(株)高槻健康管理室所長 伊藤 正人

台風6号が通り過ぎた後の平成14年7月13日、日本産業衛生学会近畿地方会・産業医部会が主催となり、第6回近畿産業医部会研修会が大阪市立大学医学部学舎において開かれました。今回のメインテーマは「作業環境管理における産業保健スタッフのコラボレーション」であり、医師を中心に200人余りの方々のお集まりのもと、開催いたしました。基調講演では、座長の酒井英雄氏(大阪府医師会・産業医部会副会長)のもと「産業保健における作業環境管理」と題して、松下産業衛生科学センター・環境衛生部課長の道辻広美氏にご講演を賜りました。松下電器グループの作業環境管理を基に、実例を挙げて作業環境測定第3管理区分を根絶してきた取り組みについて、説明いただきました。特に松下独自の取り組みである「衛生宣言活動」や労働安全衛生マネジメントシステム等について、分かり易く紹介いただきました。続いて、メインテーマについて、シンポジウムを開催いたしました。シンポジストは化学物質関連の話題を中心にして専属産業医の立場から、三井化学株式会社・本社健康管理室長の土肥誠太郎氏に、物理的要因の話を中心にして専属産業医の立場から、西日本旅客鉄道株式会社・大阪鉄道病院保健管理部医長の上原新一郎氏に、衛生管理者の立場から、松下電器産業株式会社・照明社人事グループ主事の飯田 力氏に、また中小事業場の話題を中心にして、企業外健診機関での嘱託産業医の立場から、京都工場保健会の森口次郎氏に、それぞれの取り組みをご発表していただき、作業環境測定士の立場として先の道辻広美氏にも議論に加わって、シンポジウムを開催いたしました。そのなかで論点を端的にまとめますと以下の通りです。作業環境を改善するといっても、単に健康保持(暴露防止)のみの観点だけでは、成功しにくいということです。つまり暴露防止のみの改善では、反って労働者が作業しづらくなることがあり、産業保健スタッフ等(専門家)の意向だけでなく、設備を使用する側(労働者)や設備を作る側(生産技術・整備担当)の意見をも反映させなければならないとの意見が多く出ました。つまり、産業保健スタッフのコラボレーション(協力)以外に、現場に赴き労働者の意見を聞き、設備を作る側とも協力し進めてゆく必要があるとの方向付けがありました。一方、作業環境管理に関する産業保健スタッフだけでも、産業保健職(産業医・産業看護職)、衛生管理者、衛生工学衛生管理者、作業環境測定士、ヘルスケアトレーナー(作業姿勢)等々、専門家が多く、必ずしも横の連携がうまくいっているとは限りません。これら横の連携を円滑にするためには、作業環境や労働者の健康状況から推測されるリスクに対し、専門家がリスクコミュニケーションをおこない、認識やゴールを共有化するという共通認識のもと、社内体制を構築してゆくことが重要であるとの認識を得ました。今後、産業保健を進めるにあたって、示唆に富んだ議論をいただけたのではないかと思います。

研修会に参加して

医療法人生長会愛風病院

内科 岩田 康博



今回は産業医の認定更新のため同研修会に参加させていただきました。基調講演の作業環境管理の進め方は私にとっては大変参考になりました。作業環境良化の実現には大変な労力と産業保健スタッフならびに実務者の全面的な協力なしには成し遂げられないことを実感いたしました。

シンポジウムでの三井化学での活動はプラント新增設時に産業医が出席するというものでした。作業環境をプラント新增設時に整えることができ、職員は安心して仕事ができると同時に、作業環境管理のコストを削減できます。西日本旅客鉄道での活動は車両検診についてでありました。車両の修理は有機溶剤の使用、振動工具の使用など有害業務であり、安全・快適な環境を保持することは非常に困難なことであり、特殊な業務であるだけに、産業医の苦勞も多いと感じられました。松下電器照明社では、現場と衛生スタッフとのコミュニケーションを重視されていました。産業医、保健師、看護師、衛生管理者などの衛生スタッフがどれだけ現場と一体になれるかが大事とのことでありました。中小企業の現状においては、法定の作業環境測定そのものが実施されていないことすらあり、労働衛生水準は大企業に比し低い傾向にあるとのことです。衛生管理者のレベルアップが産業保健活動レベルの向上につながるとのことでした。

シンポジウムの討論では、作業環境管理の進め方での問題点について議論されました。作業環境を改善するのは企業にいかにか現在の問題点を認識させるかにかかっており、その問題点は企業ごとに異なっており、産業医はその企業にあった指導をすることが重要であることが改めて認識させられました。

今回の研修会に参加して、産業スタッフのリーダーとして産業医がいかにか企業をリードしていかなければならないかを再認識いたしました。



お知らせ

近畿産業衛生技術部会総会・講演会

日 時：平成14年12月7日（土） 13：30～16：30
 場 所：中央労働災害防止協会
 大阪労働衛生総合センター2階 研修室
 〒550-0001 大阪市西区土佐堀2-3-8
 内 容：1）技術部会総会 13：30～14：00
 2）講演会 14：10～16：30
 表題：最近の測定技術と問題点
 ①シックハウスについて
 圓藤 陽子（関西医大）
 ②エチレンオキシドの捕集について
 藤原 治（三洋電機）
 ③ストレス指標について
 中迫 勝（大阪教育大）
 会 費：産業衛生学会会員は無料
 会員以外は参加料 500 円
 問い合わせ先：中災防・大阪センター 河合 俊夫
 TEL：06-6448-3450

近畿産業看護部会 研修会

主 催：近畿産業看護部会
 共 催：大阪産業保健推進センター
 ①平成14年度第1回研修会
 平成14年10月19日（土）14：00～16：00
 会 場：大阪産業保健推進センター
 テーマ：最近の労働衛生行政の動向
 ～過重労働、深夜業など～
 講 師：鳴門監督署署長 一色 孝徳
 ②特別研修会
 平成14年12月3日（火）14：00～16：00
 会 場：大阪産業保健推進センター
 テーマ：感染症の予防
 講 師：大阪産業保健推進センター相談員 橋本 博
 ③平成14年度第2回研修会
 平成15年2月22日（土）13：30～
 会 場：大阪府立ドーンセンター（予定）
 テーマ：最近の労働衛生の動向～過重労働による
 健康障害とその予防対策～
 講 師：大阪ガス(株)健康管理センター所長 岡田 邦夫
 申込方法：FAX：06-6263-5039にて申し込み
 申込先：大阪産業保健推進センター内
 近畿産業看護部会研究会担当 宛
 問い合わせ先：植本寿満枝 FAX：072-854-5853



産業衛生講座 第20回講習会

日 時：平成14年11月30日（土）13：30～16：30
 会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室
 内 容：I. 勤労者のライフスタイルと遺伝素因の
 相互作用と健康の保持増進
 竹下 達也（和歌山県立医大）
 II. 中小企業における産業保健活動
 朝枝 哲也（京都工場保健会）
 カリキュラム：日本医師会認定産業医制度研修会
 基礎(後期)／生涯(専門) 3単位
 受付開始日：平成14年9月2日（月）より受付中

産業衛生講座 第21回講習会

日 時：平成15年3月15日（土）13：30～16：30
 会 場：大阪市立大学医学部学舎 4階大講義室
 内 容：I. 職域における循環系疾患の一次予防対策
 渡邊 丈眞（大阪医大）
 II. 健康情報の管理と活用について
 宮上 浩史（松下産業衛生科学センター）
 カリキュラム：日本医師会認定産業医制度研修会
 基礎(後期)／生涯(専門) 3単位(申請予定)
 受付開始日：平成14年12月2日（月）

受講料

- 産業衛生講座講習会 未登録者：6,000円
 平成14年度以降、産業衛生講座 講習会を初めて受講される方は、テキスト代（日本産業衛生学会近畿地方会編『産業医学実践講座』（南江堂）販売価格9,000円）を含め、受講料は6,000円です。初回受講時に登録して戴いた後、産業衛生講座講習会 登録者（受講料 2,000円）となります。
- 産業衛生講座講習会 登録者：2,000円

問い合わせ先

産業衛生講座実行委員会事務局 FAX：06-6266-2181

申込方法

近畿地方会ホームページ（<http://www5.ocn.ne.jp/~jsohkinki/>）参照

お知らせ

ケースカンファレンス研修会

共催：大阪産業保健推進センター、
(社)大阪府医師会、
日本産業衛生学会近畿地方会
内容：グループ討議によるケースカンファレンス
(事例)・職場のメンタルヘルスに関して
(積極的に討議を行うことが必要ですので、
ご了承の上ご出席下さい。)
カリキュラム：生涯研修/実地研修(8)その他 2単位
受講資格：日本医師会認定産業医
(開催地域産業保健センター管内の
医師会会員で初回参加申込者を優先)
受講予定数：各回40名 受講料：無料
実施場所及び日程 (いずれも午後2時～4時の2時間)

地域	開催日[受付開始日]	会場
大阪中央	14.6.27(木)[14.5.20(月)]	大阪産業保健推進センター
大阪南	14.7.10(水)[14.5.20(月)]	大阪産業保健推進センター
天満	14.8.22(木)[14.6.28(金)]	大阪産業保健推進センター
大阪西	14.9.18(水)[14.6.28(金)]	大阪産業保健推進センター
西野田	14.10.17(木)[14.8.16(金)]	大阪産業保健推進センター
淀川	14.11.27(水)[14.9.27(金)]	大阪産業保健推進センター
岸和田	14.12.18(水)[14.10.11(金)]	堺市医師会館
泉大津	14.12.18(水)[14.10.11(金)]	堺市医師会館
堺	14.12.18(水)[14.10.11(金)]	堺市医師会館
羽曳野	15.1.22(水)[14.11.22(金)]	布施医師会館
東大阪	15.1.22(水)[14.11.22(金)]	布施医師会館
北大阪	15.2.13(木)[14.12.13(金)]	大阪産業保健推進センター
茨木	15.3.19(水)[15.1.10(金)]	茨木市保健医療センター

問い合わせ先：大阪産業保健推進センター
TEL：06-6263-5234 FAX：06-6263-5039
〒541-0053 大阪市中央区本町2-1-6
堺筋本町センタービル9階

第10回労働衛生法制度研究会

メインテーマ：
日本の雇用慣行の変容と人事・労務管理のあり方
第1回 副題：
労務管理学(産業組織心理学)と労働法学との対話
日 時：平成14年11月2日(土) 13:00～17:00
場 所：近畿大学会館 3階 第3会議室
(地下鉄各線・日本橋駅より徒歩3分)
地図掲載：
<http://www6.ocn.ne.jp/~direct/osirase011228tizu.htm>
講 師：大阪府立大学総合科学部
井手 亘先生(産業組織心理学者)

講師紹介アドレス：
<http://www.cias.osakafu-u.ac.jp/graduate/lhyoshi4/ide.htm>

以下で井手先生の論文を直接見ることができます。
<http://db.jil.go.jp/jsk012/dtdisp?detail=F1998120116&displayflg=1>
<http://db.jil.go.jp/jil13/plsql/jpk0401>

報 告：今後の人事評価制度と運用のあり方について
～産業組織心理学の立場から～

概 要：人事労務管理のツールとしての導入が増えている目標管理による評価制度について、これが評価される立場の人からどのように受け入れられているのか、受け入れの要因となっていたのは何かという問題を調査結果をもとに報告し、評価制度について組織心理学の立場から議論する予定。

指定発言者：緒方圭子(香川大学法学部専任講師)

連絡先：研究会事務局 三柴文典

(<http://www4.kcn.ne.jp/~missy>)

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 近畿大学法学部

TEL：06-6730-5880(3514)プッシュホン用直通

TEL：06-6721-2332(3514)交換台経由

t-mishiba@jus.kindai.ac.jp



■ヘルスアセスメントから健康支援を

□ライフスタイル診断

□食生活診断

□健康体力診断

□ストレス診断

□ヘルスナビ

■データベースから健康支援を

□データベース作成サービス

□パソコンソフト「ヘルシーWin」

□インターネットサービス

日本予防医学協会 <http://www.sunnet.or.jp>

本 部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-3651
東 日 本 支 部 東京都江東区扇橋 1-21-25 TEL 03-3649-6111
関 西 支 部 大阪市北区西天満 5-2-18 TEL 06-6362-9041
西 日 本 支 部 福岡市博多区博多駅前 3-19-5 TEL 092-473-0547
名古屋出張所 名古屋市東区代官町 39-18 TEL 052-931-0526
茨城連絡事務所 茨城県鹿嶋市大字光 3 TEL 0299-82-7736

本誌への投稿をお待ちしています!!

各種研究会の開催案内、報告が最近少なくなっているようです。本誌発刊日、投稿締切日をご確認の上、事務局へ原稿をお寄せ下さい。この他、「読者からの声」も募集しております。更には、編集方針等忌憚のないご意見もどしどしお聞かせ下さい。

～近畿地方会ニュース編集委員会～

送付先：日本産業衛生学会近畿地方会事務局

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

大阪市立大学医学部環境衛生学教室内

FAX：06-6646-3160

会員の声



ある若輩法学者よりの 提言

近畿大学法学部

三 柴 丈 典

労働法を専攻しております。ここでは若輩ながら、忌憚なく、特に医療関係の先生方への意見を具申させて頂きたいと存じます。

先ず、これは文理を問いませんが、「人間の弱さ」、「人間観」を重視して頂きたい、ということです。医療従事者の方にとって、「ヒポクラテスの誓い」は医療に携われる第一歩と承知しておりますが、クライアント同様、医療従事者の方々も生身の人間です。私がかつて、ある学会で、嘱託産業医の報酬の引き上げを提言したところ、まさに「赤ひげ先生」的論調でこれを非難されたことがございました。しかし、経済的安定のないところで精神の健全さを保てる方はよほどの方だと思います。社会科学を突き詰めて考えると、「人間は偏っていて初めて正常なのではないか」、とさえ感じる今日この頃です。果たして、「ニンゲン」には「真実」や「一貫性」、「公平」を、「どんな環境下でも」正面から認める器量は

備わっているのでしょうか。私は自信がありません。

次に、現在ある「既知の事柄」や「分かり易い事柄」に常に疑いの目を向けて頂きたい、ということです。私が法学分野で過労や新しい労働危険問題に取り組んだ発端は、自分自身、慢性疲労的な症状に苦しんだことも一つのきっかけでした。医師の方に出会う度、形式的な問診と血液検査で「異常なし」とされ、いかに自覚症状を述べても、「分かり易い」データに現れないと取り合わない。当然、通り一遍の処置では奏功せず、肺炎などの重症に陥ってようやく慌て出す。最近出会ったある医師の方に至っては、「慢性疲労症候群（CFS）」などというのは、単なる疲労につけようがないから無理矢理名前を付けているだけだ、「所詮、患者の日常生活まで医師は踏み込めない」、と宣い、私は猛然と反論しました。しかし、それまでの彼の人生を支えた考えは変わりません。本音は「所詮は要領の悪い者が悪い」、というところでしょうか。しかし、要領の悪い人間だからこそつまづく小さな石でも、掃除しないとそのうちそれが沢山貯まり、よほど器用な人でも避けられなくなる。だから、不器用な人間の訴えを聴くことこそが予防の本質ではないか、と思えてならないのです。結局、重要なことは、「既知の事柄」や「分かり易い事柄」を鵜呑みにしない、医療従事者の方々の「器量」と「感性」ではないか、と思えてなりません。



鉄を介した 酸化ストレスと細胞傷害

神戸大学大学院医学系研究科環境応答医学講座
環境医学・公衆衛生学分野

綾 木 仁

この紙面をお借りして、少し私の仕事をご紹介させていただきたいと思います。私は、環境汚染物質の毒性機序と細胞内鉄代謝系との関係について仕事を進めてきております。鉄を介したフェントン反応により生成するラジカルは、DNAに傷害を与えたり、膜の脂質過酸化を起こしたりして生体に悪影響を及ぼしますが、細胞はそのような有害物に対して防御機構を持っています。その1つと考えられているのがフェリチンで、細胞内のフリーな鉄を貯蔵し、有害なラジカルの生成を抑制すると考えられています。このフェリチンの発現量は細胞内の鉄の量の変動のみならず、外界からの酸化ストレスによっても影響を受けることが明らかになりました。これだけでは実験室レベルの話ですが、酸化ストレスによって組織・細胞傷害を起こすある種の有機溶剤や農薬の毒性機

序を考える上で、これは非常に興味深いものです。まだ細胞レベルの話ですが、酸化ストレスを起こす農薬が鉄代謝系に影響し、農薬の有害性を増す方向に働くことを、また、その毒性がある種の薬剤により抑制される結果を得ていますので、近い将来、有機溶剤や農薬の生体毒性への鉄代謝系の関与を明らかにできるものと期待しています。このようなことが明らかになると、将来、鉄代謝系の因子もバイオマーカー等として産業保健において重要な位置を占めるようになるかもしれません。

テーラーメイド医療といった新しい言葉で代表される、個人の薬物への感受性の違いを考慮するような新しい医療の流れが見え始めた現在、産業衛生現場でも、例えば労働者の有機溶剤への感受性の差を健康管理に求められる時代が近い将来やってくるかもしれません。シックハウス症候群のような最近注目を集めている疾患についても、個人レベルの対策が求められることになるかもしれません。本年、近畿地方会に設立された近畿産業衛生技術部会は、まさに種々の産業衛生技術に関する討議の場として最適であると思います。設立発起人の一人として、いろいろな分野の方々にお集りいただき、そこで得られた成果を産業保健現場へフィードバックできることを期待しております。

会員の声



産業医としての自覚

(医) 晃和会 北田医院
大阪府医師会産業医部会副部長

北田 正 治

私が産業医として働き始めたのは、1985年ごろである。医者になって約10年たった。しかしそのころは開業まもなくで、患者を診るのに精一杯であった。今思うと産業医として何をしていたかあまり記憶にない。産業医としての意識を持ち始めたのが、それから7年位してからである。というのも、地域医療を行っている地域事業所から、産業医になってもらえないだろうかとか、健康診断をしてもらえないだろうかといった相談を受けるようになったのがきっかけだった。また、開業の片手間に行っていたので、仕事量の多さに驚いたことを記憶している。このように皆様から叱られるようなきっかけで産業医として働き始めた。

そのうちに、地域医師会において産業医活動の仕事をするようになった。特に北大阪地域産業保健センターの

設立にかかわり、行政の方々とも話す機会を得、産業医活動を通して地域に関わるようになった。その後、大阪府医師会産業医部会の仕事をするようになり、府医師会の立場から産業医活動に携わり、今までになく産業医活動の重要性に驚いた。

産業医部会の私の担当である「中小企業勤労者健康保持推進委員会」は、地域産業保健センターの活性化を如何に行うかを考える委員会である。そこでいつも問題になるのが、事業場側の産業保健に対する無関心さと、産業医の産業医活動に対する消極的な考えだ。一部の人達しか活動していない事実は隠せない。しかし産業医としての自覚と誇りを持ち、無関心な事業場を活性化することが、地域医療に携わっている我々の大きな役割のような気がしている。この活動はやればやるほど奥が深く矛盾にも出くわす。しかし、地域の方々の健康を考える上において、多くの方が人生の重要な時期を労働者として過ごすことを考えれば、開業医として避けては通れない地域医療のひとつの大きな役割ではないだろうか。

これから徐々にでも産業保健活動が、地域医療の中で産業医として積極的な活動を行えるように、活動しやすい環境を作っていきたいと考えている。

最後に日本産業衛生学会のご協力をお願いいたします。



産業衛生活動の 海外展開について

松下産業衛生科学センター
看護部長

中村 俊子

今、産業保健のグローバルスタンダードについて論議されています。2年前の平成12年にタイで自動車用バッテリーを製造している工場を訪問した時のことです。

訪問の目的は職場巡視と健康診断及び作業環境測定がどのように実施されているかの確認でした。この工場の従業員は約550名うち日本人は5名で、健診としては定期健診年1回、鉛健診年2回、騒音健診年2回が実施されていました。それ以前の平成11年夏にJICAのタイ労働安全衛生センター（NICE）拡充計画プロジェクトに参加した際には、タイの労働安全衛生法は衛生については非常に不十分であるとの印象を受けていましたが、この工場では鉛についてはガイドラインに従って健診や作業環境測定が実施されていました。鉛健診の項目は血中鉛のみで、血中鉛が $50 \mu\text{g}/100\text{ml}$ 以上は3ヶ月毎に再測定、 $60 \mu\text{g}/100\text{ml}$ 以上は医師の診察となっています。許容濃度は $0.2\text{mg}/\text{m}^3$ （日本 $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ ）で、作業環境測

定はスタンドを立て1工程1点のみ測定するエリア測定でした（政府機関のNICEは個人暴露の測定）。日本から持参した機器で個人暴露を測定してみました。同じ製品を製造していても暴露の高い作業や工程が日本と異なっていました。暑い国なので天井からのスポットクーラーが随所にあり、また超大型扇風機を回している為です。ISO14000も取得されており、現地の従業員はそのことを誇りに思っていると聞きました。作業服で通勤していましたが、これも自分のステータスの誇示だそうです。その他保護マスクについても考えさせられました。3M社の使い捨て防塵マスクを紹介したところ（日本の親会社では2日に1回交換）、タイではそのマスクは80パーツ（当時1パーツ約6円）もし、2日に1回全員に支給するとすれば会社の売上の0.3%に該当するとのことでした。健康のためにと会社が支給しても、昼食が5~15パーツで食べられる国で、80パーツもする物を2日に1回捨てることを現地従業員は納得するのでしょうか。タイの作業環境は日本に比べると色々問題があり、血中鉛値も日本に比べ高値であることは事実です。健康は世界共通の願いでグローバルスタンダードの確立が望まれますが、その為には現地の法律や基準、国民性を尊重し、正義感の押し付けでなく、真に現地従業員に喜んでいただける保健サービスを提供するにはどうあるべきかを考えることが必要と感じました。又、世界各地に展開する現地企業の情報を如何に収集するかも今後の課題であると考えます。

近畿の産業保健活動—大阪府—

大阪府医師会産業医部会と大阪産業保健推進センター、
日本産業衛生学会近畿地方会との連携について



大阪府医師会理事 産業保健担当
大阪府医師会産業医部会副会長 酒井 英雄

大阪府医師会産業医部会の今後の重点課題は2つある。1番目は産業医研修事業である。従来から産業医の資質向上のため研修事業には積極的にとりこんできた。府下の産業医のマンパワーがほぼ充足された今、ケースカンファレンス方式での実地研修が資質向上に是非必要と判断した。幸い府医師会と大阪産業保健推進センター、日本産業衛生学会近畿地方会、大阪労働局とは良好な関係にある。これらの団体と連携をとればこの研修方法は可能になる。

そこで、大阪産業保健推進センターは2000年から、大阪府医師会と産衛学会近畿地方会の共催、大阪労働局の後援の元に、日医認定産業医研修会として、約50人程度の参加者を5人程度の小グループに分かれてのケースカンファレンスをはじめた。アドバイザーには産業衛生学会の専門医、労働局の専門官がそれぞれのグループに張り付いて討論を活性化するように誘導してもらった。

参加された産業医の感想は、新鮮であった、ためになった、また参加したい等、好評であった。大阪府下13地域産業保健センター単位で講習会をひらいたが、地域により参加者数に多寡があり、その地域特性がうかがえるとおもわれた。

そこで、本年からメンタルヘルスに関するケースカンファレンスをはじめることとした。メンタルヘルスにおいて、課題を作成することに難渋し、また、アドバイザーのマンパワーにも不安をもってはじめてみた。受講生もアドバイザーも手探りで、実際はじめてみると、ケースの討論と総括に時間がかかりすぎて予定時間をすぎることとなった。2回目からは、その反省をふまえてケースの討論については設問に工夫をこらし、アドバイザーに誘導してもらい、発表の総括も要領よくしてもらった。経験をつみ、より良いものに、参加者によるこぼれるものにするつもりである。マンパワーについては大阪精神診療所協会の産業保健委員会にもアドバイザーをお願いする予定である。

大阪府医師会では、産業医実地研修を地域センター単位でおこなうようにお願いしている。参加者の人数が適正となり、また地理的に参加しやすいというのがその理由である。

また、事業場巡視でも地域特性を発揮しやすい。これらに加えて、大阪産業保健推進センターは、各地域産業保健センターにおいて実地研修をおこなっている。職場巡視のチェックポイントからはじめ、今年はセクシュアルハラスメントの事例研究を大阪府下13の地域センターでおこなっている。講師には、推進センターの相談員や行政にお願いして参加者も多い。

近年、労働安全衛生法がらみのガイドラインが多くだされる。事業場におけるメンタルヘルスカケア、VDT作業、過重労働、等、産業医にとって当然知っておくべきものがつぎつぎとだされる。これらについての研修会はできるだけやきたい。幸いなことに、推進センターの相談員、産衛学会近畿地方会というブレーンを医師会はもっている。7月に6単位のメンタルヘルス関連の研修会を実施し、来年1月に過重労働について、6単位の研修会をおこなう予定である。

さて、産業医部会の2番目の課題は認定産業医の就職問題である。全国に14万箇所の50人以上従業員が所属している事業場があり、認定産業医は5万人であるから、産業医1人あたり2、4箇所担当することになるのだが、調査してみないと明確なことはいえないが、かなりの数の認定産業医が選任されていないのが現状である。地域センターの出務、あるいは推進センターが実施している小規模事業場の共同選任産業医等を手がかりにして、実務経験をかさねている産業医には是非とも事業場に選任されたい。現在、行政から事業場に対して産業医の選任の有無についてローラー作戦を行っている。また、日本医師会を通して都道府県医師会単位で、認定産業医が事業場に選任されている割合を調査することも考えている。これらの方策を含めてすべての事業場に産業医が選任されることが目的である。

会員の異動 (平成14年5月1日～8月31日届出分：届出順)
退会

中村 克子	野田雄一郎	水間 美宏
新上万佐子	頭司 康二	濱田 辰巳
三浦 康伸	尾崎真理子	園 伊知郎
福井 幸男	森本 修	有田 幹雄
奥出 祐子	川西貴美子	山田 英次
斎藤 健	山下るり子	

田村 玲子	NTT西日本九州健康管理センタ：九州地方会へ
早川 孝裕	早川医院
橋本 弘史	佐久総合病院：北陸甲信越地方会へ
松岡陽太郎	テルウェル西日本(株)健康管理室
窪田 耕輔	NTT西日本関西健康管理センタ
高橋太加司	大阪いずみ市民生活協同組合退職
安井 甚藏	日本電気硝子(株)CRT事業部退職
吉澤由紀子	松下興産健康管理室退職：関東地方会へ
西野入 修	中央労働災害防止協会大阪労働衛生総合センター：北海道地方会より

入会

栗山 敦子	吉田アーデント病院
古川奎二郎	再入会
吉倉 正	淀川勤労者厚生協会社会医学研究所：再入会
藤田 正憲	(財)近畿健康管理センター滋賀事業部診療所：再入会
中澤 由美	東洋電機(株)亀岡工場
駒田 裕之	洛和会音羽病院
中井 昭宏	(医)大泉会大仙病院
藤原 治	三洋電機(株)環境リサーチセンター
広田 善彦	(株)ブリヂストン彦根健康管理センター：再入会
濱田 眞彰	名取病院
杉野 美喜	松下産業衛生科学センター：再入会
石津 弘子	東洋製罐(株)茨木工場
垣内 浩子	藍野学院短大専攻科
近松 典子	大阪鉄道病院保健管理部
長屋 敏裕	(医)あけぼの会
吉井 和子	(医)あけぼの会メンタルヘルスセンター
松本 宏	愛仁会千船病院
夏目 照子	(株)INAX
池田 直子	松下産業衛生科学センター
小幡亜希子	大阪大学大学院医学系研究科 環境医学教室
植田 淳司	(株)平和堂健康管理室
岡 靖哲	京都大学医学部神経内科
高橋 裕子	奈良女子大学保健管理センター
北田 正治	(医)晃和会 北田医院
門脇 崇	滋賀医科大学福祉保健：再入会

福西みのり	東京海上メディカルサービス
須田研一郎	須田内科循環器科
星山ゆき子	ダイエー健康保険組合健康管理センター
竹林真智子	松下産業衛生科学センター
奥 賀也子	関東地方会へ
中村あけみ	NTT西日本京都病院健診センタ退職
竹下 達也	和歌山県立医科大学公衆衛生学教室
中島加珠子	科学技術振興事業団
山村 喜一	山村医院
大岡 潤子	NTT西日本関西健康管理センタ
益江 淑子	三洋電機(株)産業保健センター
中村 賢治	滋賀医科大学予防医学講座
前田 義章	前田内科医院
大上 圭子	NTT西日本関西健康管理センタ/旧姓：大内圭子
大濱 和代	芦森工業(株)大阪工場医務室
辻田 敏	(医)愛野会介護老人保健施設アルカディア
田崎 慎子	(有)悠久の風
榎屋 義雄	(医)成義会 榎屋医院
神戸 泰	NTT西日本関西健康管理センタ
大島 俊之	公設国際貢献大学校、国際保健医療学部：中国地方会へ

その他

濱田 千雅	旧姓：末松千雅
林田千雅子	旧姓：若林千雅子
川辺るみ子	旧姓：原田るみ子

所属変更

菱沼 繁道	結核予防会大阪府支部診療所
小林知加子	NTT西日本関西健康管理センタ
橋口 克頼	松下電工伊勢工場：東海地方会へ
上田 伸治	参天製薬(株)
中嶋 千晶	財務省共済組合大阪税関支部診療所
高須 靖夫	東海地方会より
黒田 基嗣	和歌山県福祉保健部医務課
茂木 佳枝	産業医科大学産業生態科学研究所臨床疫学教室：九州地方会へ
百道 敏久	神戸大学医学部老年内科
菖蒲 祐子	松下産業機器(株)健康管理室
郷司 純子	兵庫医科大学公衆衛生学教室
榎屋 義郎	(医)成義会榎屋クリニック
堀口 俊一	大阪産業保健推進センター
西田 知未	神戸大学医学部分子疫学教室
米田 武	NTT西日本関西健康管理センタ
松葉 和己	老人保健施設みみはら
米加田啓介	神戸労災病院：東北地方会より
植岡 隆	福岡歯科大学口腔保健学講座：九州地方会へ

Healthy to the Future

ヘルスコミュニケーションを基本に
地域の人々と共に歩んでいます。

愛滋会 矢倉診療所 (365日診療)

愛滋会 産業医学健診センター

滋賀県草津市東矢倉2-5-36

TEL:077-564-5689 FAX:077-562-7706

お知らせ

第12回産業医・産業看護全国協議会

メインテーマ：めざそう！産業保健と地域保健の連携

日時：平成14年10月25日（金）、26日（土）
会場：熊本市産業文化会館
熊本市花畑町7-10 TEL：096-325-2311

10月25日（金）
17：30～19：00

- ワークショップ：①事業所におけるメンタルヘルスの対応-事業場外資源との連携-
②中小企業における産業保健活動
③若年労働者の健康管理は
いかにあるべきか

①、②、③のいずれかに参加できますが、会場の広さの関係もありますので、参加希望を募ります。定員になり次第締切りますので、早めにお申込み下さい。参加者には参加者証を事務局からお送りします。

19：30～
懇親会：熊本交通センターホテル

10月26日（土）
9：00～10：00

- 特別講演：産業保健と地域保健の連携
講師：小山和作（日本赤十字社熊本健康管理センター）
座長：鎌田 隆（労働福祉事業団静岡産業保健推進センター）

11：20～12：00
ポスターセッション：

13：00～14：30
シンポジウム①：産業保健活動をどう評価するか
シンポジスト：武藤孝司（順天堂大学医学部）
宮本俊明（新日本製鐵(株)君津製鐵所）
波野壽代（NTT九州健康管理センター）
座長：大久保利晃（産業医科大学）

14：45～16：15
シンポジウム②：健康日本21と産業保健活動
シンポジスト：松田晋哉（産業医科大学）
鎗田圭一郎（マツダ(株)健康管理センター）
田中亮子（熊本市健康福祉局）
厚生労働省より出席者あり（検討中）
座長：二塚 信（熊本大学医学部）

参加費：学会員 7,000円・非学会員 8,000円
懇親会参加は別途6,000円が必要

事務局
日本赤十字社熊本健康管理センター企画広報課内
〒862-8528 熊本市長嶺南2-1-1
TEL：096-384-2111(8234) FAX：096-387-8278

その他詳細は、産業衛生学雑誌44巻3号参照

議事録

平成14年度第2回幹事会

日時：平成14年6月25日（火）18：00～
場所：大阪市立大学医学部学舎 18F 会議室
出席：堀口 圓藤 河合 小泉 植本 車谷 大脇
西村 清田 石山 原 住野（合計12名）
欠席：藤木 岡田 山田 河野 宮下 上田 長澤
杉本 道辻 日高 大東

（合計11名 全員委任状有）

事務局：清田 （敬称略、順不同）

【審議事項および報告】

- 1. 「昨年度実施された本部理事長選挙における近畿地方会の広報活動」に関する幹事会としての総括
5月25日の総会で保留になった懸案について、全幹事・監事に事前に送付しておいた「謹告」文案について審議がなされた。その審議を踏まえて、圓藤総務担当理事が原案を修正し、その文案について全幹事にFAXで意見を求め、7月15日発行の地方会ニュースに折り込むことが承認された。
2. 50周年記念誌編集委員会報告
堀口俊一50周年記念事業担当責任者から、記念誌作成の進捗状況が説明された。
3. 3部会の活動方針について
植本寿満枝学術担当理事から、平成14年度から3部会は独立して活動し、また3部会協力体制での地方会総会時での事業の実施を検討するとの報告がなされた。

なお、1. に関しては、原一郎監事より7月8日に発送を見合わず様にとの指示があり、発送中止に至った。また、原一郎監事より7月15日号掲載の第50回総会議事録について追加掲載の要望があり、以下に記す。
「7. (2) 原監事より会計監査を承認した旨の報告と、役員選挙における運動方法の検討と業務管理についての留意点が述べられ、会場より承認された。」（二重線部分を追加）

編集後記

天高く馬肥ゆる秋。今年の夏は殊の外厳しい暑さでした。厳しいといえば景気回復の兆しも未だ上昇せず、輸入牛肉の不正買い取りや政治家による不正事件、産業現場でも中高年者のうつ病激増等々暗いニュースが流れ、心身共に元気の出る話題が少ない上半期が過ぎました。他方、今年2月には厚生労働省より脳・心疾患の労災認定基準を踏まえて「過重労働による健康障害防止のための総合対策」のガイドラインが発行されて以来、各事業所では様々な取り組みがなされているようです。
残り下半期、せめて阪神タイガースの明るいニュースで締め括れたらと願っていますが、見果てぬ夢で終わるのでしょうか？ （大脇）

編集委員（五十音順）

大東正明、大脇多美代、岡田章（編集責任）、
車谷典男、杉本寛治、日高秀樹、道辻広美、山田誠二

次回発行日 2003年1月15日
（原稿締切日 2002年11月30日）